

一宮 施設での移動販売、不動産会社取り組み

一宮市内の福祉施設などでの焼き芋の移動販売に、同市朝日二の不動産会社「ピュアフィールド」が取り組んでいる。障害のある施設入所者らに給料を支払って販売に携わってもらい、雇用創出も図っている。

(猿渡健留)

焼き芋 福祉の味わい

二十一日は、同市北丹町二の障害者福祉施設「かしの木サポートプラザ」の駐車場で販売。入所者が移動販売車の前で、サツマイモ形の人形を手に「いらっしやいませ」と声を出し、一本二百円の焼き芋の購入を呼び掛けた。イモに焼き印を入れたり、店先に置かれた黒板にイラストを描いたり、それぞれの得意分野を生かして働いた。

呼び込みの姿を見て、買ってくる近隣住民も多く、入所者と触れ合うきっかけとなっている。施設管理者の入山達也さん(四七)は「入所者らは楽しみながら生き生きと仕事をしている。近

所の方とも身近に触れ合えるようになった」と喜ぶ。同社は数年前から、子ども向けのものづくり体験や母親向けの防災セミナーなどのイベントを開催してきたが、新型コロナウイルスの影響で、昨年からは中止に。野外で密にならずに地域住民と交流するため、同社の清原健志社長(四七)が焼き芋の移動販売を発案し、今年一月にスタート。四月からは施設入所者らも販売に加わってもらった。

穫したイモは、子どもたちの家庭で食べてもらう予定だ。いずれ生産が安定すれば、焼き芋にして販売につなげていく計画もある。移動販売では、同社が提供したイモで、近隣の菓子店などに作ってもらったプリンやパンも並べる。清原社長は「焼き芋の販売を通じて、地域とのつながりをつくりたい。一人でも多くの方が福祉施設の良さを知ってほしい」と期待した。

入所者確認する焼き加減のイモ
一宮市北丹町2の「かしの木サポートプラザ」で



焼き芋の移動販売車の前で集客する入所者(一部画像処理)



オンラインで総会に参加する中野正康市長(一宮市役所で、同市提供)

「名岐道路」要望書 再提出へ

整備促進期成同盟会が総会

清須市と岐阜県岐南町を結ぶ「名岐道路」の整備計画で、一宮市など沿線五市

町で構成される整備促進期成同盟会の総会が二十一日、オンラインで行われ、未整備区間の早期実現を求